



県建設業協会津久見支部

制作ドラマ 最優秀賞

【津久見】県建設業協会津久見支部（16社）が制作し、交流サイト（SNS）で配信中のショートドラマ「つくみの風」（全10話）が、公益社団法人土木学会（東京都）の「土木広報大賞2025」で最優秀賞に輝いた。同支部は「励みになる」と喜んでいる。

全国「土木広報大賞」

「SNS活用の遅れ」を業界の課題と捉え、勉強会開催などと合わせて取り組

げようとドラマ制作を企画。若い世代に気軽に楽しんでもらおうと、1話当たり1、2分で構成する縦型ショートドラマに挑戦した。

建設の仕事になじめない若手女性社員が、先輩社員との関わりや地域の温かさに触れることで業界の魅力を知っていくというストーリー。市内のラウンドアバ



最優秀賞を受賞したショートドラマ「つくみの風」。公式SNSで全10話を公開中

SNS
配信中

「人材確保目指す」

ウト（環状交差点）や石炭山（環状交差点）や石炭山の現場をはじめ、つくみイルカ島や保戸島といった観光資源、景観なども盛り込んだ。

同大賞は隔年開催で、今回は全国の企業、団体などから88点の応募があった。伊東忠文支部長らが4月下旬、市役所を訪れて最優秀賞に選ばれたことを報告。石川正史市長は「クオリティが高く、素晴らしい作

品。今後も業界を盛り上げて」とたたえた。ドラマはインスタグラムやティックトック、ユーチューブなど同支部公式SNSで観賞できる。伊東支部長は「今後も若者に興味を持つてもらえるようなアクションに挑戦し、業界の担い手確保や津久見の人口増につなげられたら」と話した。

（大海すみれ）



最優秀賞を受賞した県建設業協会津久見支部の伊東忠文支部長（中央）ら＝津久見市役所



〔問①〕 ショートドラマのタイトルと、今回、大分県建設業協会津久見支部がドラマ制作を企画した理由を記事を読んで書いてください。

【タイトル】 : つくみの風

【理由】 : 建設業の仕事内容、やりがいを多くの人に知ってもらい、人材確保につなげるため

〔問②〕 以下の会話文から、記事の内容に関して誤っている箇所をすべて選んでください。

ケンタ : なあ、この記事見た？ 津久見の建設業協会の人たちが作ったショートドラマが、㉞公益社団法人土木学会の「土木広報大賞2025」で最優秀賞に選ばれたんだって！

アオイ : え、すごい！ 建設会社の人たちがドラマを作ったの？

ケンタ : そうそう。SNSで配信されている㉟全20話の長編ドラマらしいよ。1話あたり1、2分だから、若い世代でも気軽にサクッと見られるように工夫したんだって。

アオイ : どんなお話なんだろう？

ケンタ : ㊱仕事になじめない若手の男性社員が、先輩や地域の人たちの温かさに触れて、建設業の魅力に気づいていくストーリーだって。しかも、市内のラウンドアバウト（環状交差点）や、つくみイルカ島なんかも登場するらしいよ。ちなみに今回の賞には、㊲全国から88点の応募があったらしいよ。

アオイ : 最優秀賞ってすごいね！ 4月下旬には、㊳市長さんたちが建設業協会の事務所を訪れて、「クオリティーが高く、素晴らしい作品」って絶賛しているよ。

ケンタ : YouTubeやTikTokで見られるみたいだから、私たちも見てみようよ！

答え : ㉞、㉟、㊲

〔問③〕 記事の中で伊東支部長は「今後も若者に興味をもってもらえるようなアクションに挑戦し、業界の担い手確保や津久見の人口増につなげられたら」と語っていますが、地域の企業や団体がSNSをPRに用いることのメリットは何だと思えますか。

- ・より広い世代の人に見てもらえる機会が得られる。
- ・ドラマのような独自のアプローチをする事で印象に残りやすい。
- ・短い映像にする事で、わかりやすく仕事や地域の魅力を伝えられる。 など